

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標の達成度	「カブール市およびナンガハル州の児童の学習環境の改善」を目的に事業を実施した。(ア)校舎建設活動を通して、864人に安全で快適な学習環境を整備することができ、(イ)図書室改善活動を通して、27,073人の児童と989人の教員が良質な図書にアクセスできる環境を整備した。そして、ナンガハル州では、(ウ)子どもの学校外教育活動を通して、ジャラバード市内の子ども達延べ38,842人が学校外教育へアクセスでき、不就学児童40人が公立小学校1年生と同様のカリキュラムを修了することができた。これらのことから、目的であるカブール市、ナンガハル州の児童の学習環境改善に資することができた。
(2) 事業内容	(ア) 校舎建設活動 教室不足の解消を目的に、カブール市内ゾーン11にあるシャラケ・タラ小学校に、教育省建設局の学校建設設計基準に従った1階建て6教室ならびに2室(教員室、図書室)の校舎および水洗トイレ5室1棟(うち1室は障害児用)を建設した。 建設にあたり、カブール市内教育局建設部や対象校関係者、地域住民代表との調整を行い、4月11日に着工した。着工後、7月、干ばつの影響を受け事業地の水位が低下し、一時的に水の使用が出来ない期間があったが、既存の井戸を修理することを住民組織と合意し実施した。建設の全工程は、当会のエンジニア、住民組織代表と教育局建設部のエンジニアによる定期モニタリングにより管理した。完成後は、各教室に児童用の3人掛け机・椅子を18個と教員用の机・椅子、教材保管用の戸棚を設置した。その後、2019年1月1日に竣工式を実施し、当会職員、学校教員、児童、教育省大臣、教育局職員、住民らが参加した。この竣工式では、対象校が日本の支援により建設されたことを説明し、建設した校舎をカブール市教育局に譲渡、学校とコミュニティが協力して学校運営にあたる旨の合意を得た。 (イ) 図書室改善活動 ① 学校図書室の設置 対象校14校(カブール4校、ナンガハル県10校)に対して、学校図書室の設置を行った。うち1校は、建設活動対象校であったため、校舎完成後の12月、学校備品を供与した際に、図書室となる部屋に机・椅子、棚といった家具と図書を設置した。対象校1校あたり、現地で出版した絵本および紙芝居と日本から郵送した図書9タイトル50冊を含む合計859冊を供与した。 ② 図書活動についての教員研修 「一般教員研修」と「図書室担当教員研修」をそれぞれ2回実施した。一般教員研修は、対象校18校で実施し、第1回は11校345人が、第2回は7校201人が参加した。図書室担当教員研修では対象校の24校で実施、第1回に14校56人が参加し、第2回に10校40名が参加した。またそれぞれの研修には、対象地の教育局職員2名の参加もあった。どちらの研修内容も申請書の通りである。 対象校25校において、移動図書館活動を111回、1校あたり約4.4回実施した。この活動では対象地域の教育局指導主事と共に、当会職員が対象校を訪問し、児童への読書の動機づけを行ったと同時に図書館の使用状況や貸し出し状況についてのデータを収集した。読み聞かせに参加したのは、延べ3,972人(ナンガハル州2,180人、カブール市1,792人)で、1回あたりの参加者数は35.7人であった。貸し出し冊数に関して、全対象校で92か月分の貸し出し記録を収集した結果、21,303冊であった。1校当たり232冊であった。

	また防災紙芝居として、不発弾や地雷の対処をテーマとして紙芝居を作成し、ダリ・パシュト語それぞれ 200 部を出版した。出版した紙芝居は、対象校へ配架した。 (ウ) 子どもの学校外教育活動 ジャララバード市内の子ども図書館を運営し、市内の児童に対して学校外教育の機会を提供した。この子ども図書館は事業期間内、合計 235 日間開館し延べ 38,842 人が利用し、そのうち半数以上の 19,812 人が女子児童であった。1 日あたりの利用者数は 165 人で、図書の閲覧だけでなく、絵画教室や工作教室、縫製教室、タラナ（アフガニスタンの詩）の朗詠教室等に参加した。 同図書館において、祝日や子どもの誕生日を祝う特別行事を開催した。この特別行事は独立記念日や子どもの日、母の日などの記念日を祝うもので、各回テーマに合わせて子どもたちが寸劇や歌、詩などの発表を行った。月例イベントは合計で 11 回実施し、参加者は 1,660 人であった。行事 1 回あたりの参加者は 151 人である。 8 歳から 12 歳の不就学児童を対象に、4 月から 12 月にかけて特別教室を開講し小学 1 年生レベルの読み書き、計算といった授業を提供した。ジャララバード市内で学校に行けない 40 人の子どもたちが参加し、9 か月間の教室を修了した。
(3) 達成された成果	(ア) 校舎建設活動 <u>16 クラス、656 名の児童が安全で快適な教室で学習できている。</u> 4 月 16 日に使用状況を確認するモニタリングを行ったところ、16 教室 675 人の小学生児童が新校舎を使用して学習を行っており、計画時の指標を上回っていた。また事業前に 49 クラス 1906 人だった児童数は、50 クラス 1952 人に増加した。これは校舎が完成したことにより、子どもたちだけでなく、地域住民や保護者の教育への意識が高まったことが理由であると、学校教員への聞き取りにより分かった。 これらの成果は、持続可能な開発目標（SDGs）の目標 4-1 初等教育のアクセスと質の改善、4-5 女子、脆弱層の教育格差の改善、4-7ESD（防災教育）の推進、4a 安全で効果的な教育施設の提供 4b 教員研修によってより質の高い教員の増加に寄与する。 (イ) 図書室改善活動 <u>対象 25 校において、1 校あたり 300 冊/月以上の図書が児童に貸し出されている。</u> モニタリングの結果、1 校あたり月 232 冊（目標比 77.3%）の図書の貸出を確認した。ナンガハル州対象校では、月平均 263.8 冊（目標比率 87 パーセント）の本が貸し出されており、カブール州対象校では、月平均 131 冊（目標比 43.6%）であった。これらは、既述の成果指標を挙げられていない。 この理由として、以下のことが挙げられる。 ・ 治安の悪化 2018 年 6 月の停戦期間後のテロ攻撃の激化、また 10 月に行われた下院選挙、その事前有権者登録に関連する襲撃の増加などにより、治安が悪化した。特にナンガハル州では、教育に従事する INGO 事務所、教員養成校、教育省などの教育関係機関や組織を対象とする襲撃が相次ぎ、たびたび公立小学校が臨時閉鎖となっている。反政府勢力からの警告を受け取った学校もあり、特に保護者からは、授業とはいえ子どもたちが学校へ長時間滞在することを不安視する声が上がっている。このような不安定な情勢のなかで、子どもたちが学校で過ごす時間が減少

	し、それに伴って図書室の利用率も下がっている。実際に、ナンガハル州対象校 5 校は前年からモニタリングを行っており、今年の図書貸出実績は、昨年の月平均 423.5 冊から 65%減の 278 冊であった。 ・ 図書館担当職員の手当が停止 本国大統領の汚職防止施策の一環で、これまで教育省により制度化されていた図書室担当教員に対する手当が差し止められている。これにより、学校レベルで図書館担当は決めるものの、校長や一般教員が兼務している場合が多く見られている。図書館担当職員の交代や不在が児童の読書機会を確保するための課題となることは、これまでも指摘しており、各県レベルの教育局へは随時相談を行っている。ナンガハル県の教育局からは本活動に肯定的な理解を得ており、本教育局を通して、趣意書を作成、中央への提言を 2 度行っている。 この活動では、環境整備や教員研修といった活動を通して、読書機会を増進すること、良質な図書へのアクセスを確保しようとしており、SDGs における 4-1 初等教育のアクセスと質の改善、4-7, ESD（防災教育）の推進、4a 安全で効果的な教育施設の提供、4c 質の高い教員の増加へ寄与する。 （ウ）子どもの学校外教育活動 ①1 日当たり 120 人の児童が学校外教育活動に参加している 事業期間を通して、38,842 人の子どもが子ども図書館を利用した。1 日当たりの利用者は 165 人であり、この指標を上回っている。ジャラバード市内の治安の悪化や、選挙などの社会情勢の変化により、開館日数は減少しているものの、利用者数は例年に比べて急増しており、子どもが自由に学習したり遊んだりできる場所や機会の必要性が伺えた。昨年に引き続き、パキスタンからの帰還民や国内避難民の子どもたちだけでなく、学校に行けない子どもや路上で働く子どもの利用もあったことから、様々な理由で公教育にアクセスできない脆弱層へアプローチできたと言える。 ②不就学児童 35 名が教育の機会を得ている。 4 月から 12 か月の 9 カ月間、不就学児童を対象に特別教室を開講した。9 歳から 13 歳の子どもたち 40 人が参加し、これを修了した。よって 35 名以上が学習機会を得ており、この指標を上回っている。今後、ナンガハル県教育局が実施するテストに合格すると公立小学校への編入が可能となる。本年度実施されたテストでは、前年に本教室を修了した 40 人中 38 人が公立小学校への編入を果たしており、本年度修了した児童もその多くが公立小学校への編入が期待される。 これらの活動を通じた成果は、SDGs4-1「初等教育のアクセスと質の改善」の観点から、40 名の不就学児童（うち 38 名が女児）が初等教育第一学年と同等の内容を学習でき、学校へ編入することが期待されていること、4-5「女子、脆弱層の教育格差の改善」の観点からは、学校外教育活動に参加した女子児童（年間のべ 19,812 人）のコミュニケーションや意見表明の機会が増加したことが挙げられる。
--	--

(4) 持続発展性	(ア) 校舎建設活動については、建設した校舎と供与した備品はカブール市教育局に譲渡、登録された。校舎の維持管理は学校と市教育局が責任を負う旨が登録証には記載されている。学校教員とコミュニティに対しては、別途校舎維持管理研修を実施し、建物の使い方を説明、損傷を最小限にとどめ長期に渡り使用できるように促した。 (イ) 上述の通り、図書室改善活動について、教育省により図書室担当教員の配置が制度化されているものの、2018 年下半期にはガニ大統領により汚職防止策の一環で一時的に図書館専任担当者への手当付与が差し止められている。この状況の改善を求める書簡を教育局を通して発信している。学校図書館設置・図書館員の配置に関する方針は、国の教育戦略計画で定められているものの、汚職防止策が整備されるまで手当の支給再開は見込まれていない。引き続き、管轄局省庁への働きかけを行う他、学校教員への活動継続へ向けた動機付けを行う必要がある。 (ウ) 子どもの学校外教育活動は、ナンガハル州の情報文化局が運営する公共図書館で導入されることが期待される。ナンガハル州の図書室担当教員研修はこの子ども図書館で開催されており、参加者が学校図書室での活動が創造できるようなモデルケースとして引用されている。不就学児童のための特別教室では、修了した児童が公立小学校への編入ができるように教育局や保護者への働きかけを行う。
------------------	--